

イギリス児童文学をめぐる旅 ～物語の舞台を訪ねて～

話題提供 **越高 令子** さん (ちいさいおうち書店)

日 時 **4月10日(土)** 午後1時30分～3時30分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 講堂 第一会議室** 参加費 200円

1980年、高校まで過ごした故郷の松本にこどもの本の専門店を開くために帰ってきました。こどもの本を売るだけでなく、こどもの文化の情報センターになるようなお店にしたいと願い始めたのです。その頃から、実現したいと考えていたことが三つありました。

一つめは、お店が少し軌道にのったら、病院や障害のあるこどもたちに本の楽しさを伝えるボランティア活動をしたいということ。これは、こども病院の読み聞かせに始まり、その仲間と「本と子どもの発達を考える会」を立ち上げ、10周年には、活動報告をまとめて本にするまでになりました。

二つめは、お店を開く前、世界の絵本を原書で仕入れ解説をつけて販売するという仕事をしていたので、長野県内の図書館に翻訳された絵本の原書をいっしょに見ることができる拠点をつくりたいという夢でした。これも、不思議な偶然が重なり、松本市の中央図書館に実現することが出来ました。

そして、三つめのわたしの夢。それは、小さいころからずっと途切れることなく親しんできた児童文学の舞台を実際に訪ねたいということでした。過去3回、児童文学の宝庫イギリスを、家族で訪ねました。その舞台に立つと震えるような感動を味わうことが出来ました。「ピーターラビット」「不思議な国のアリス」「トムは真夜中の庭で」「グリーン・ノウの子どもたち」などを、物語を振り返りながら、お話したいと思います。

コロナ禍で海外旅行は、当分行けそうにありませんが、いつか出かける日を夢見て、本を読み、空想の旅に出かけませんか？ そんなお手伝いができたらうれしいのですが…。

越高令子(こしたかれいこ)さんは松本市生まれ。1980年、市内でこどもの本の専門店「ちいさいおうち書店」を夫と開店。こどもと本に関わるさまざまな活動を展開。40周年を迎える。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催 サロンあがたの森実行委員会 共催 旧制高等学校記念館・記念館友の会

問合せ 旧制高等学校記念館 ☎ 35-6226 FAX 33-9986